



谷茶綱引き(2017年)



ンケージ(ムカデ)旗と
北斗七星の描かれた旗

本番当日は、御嶽でミキウガン(神酒御願)を行い、旧家のトウンチ(屋号)を境に、シンダカリとメンダカリに分かれて綱引きが行われます。双方には「迎える」という意味を持つムカデ形の旗(ンケージ旗)と、北斗七星が描かれた旗があり、どちらも航海にまつわる旗となっています。綱引きの勝敗については、シンダカリが勝てば豊漁、メンダカリが勝てば豊作と言われています。近年は谷茶区以外からの参加もあり、活気ある綱引きや交流を見ることが出来ます。

富着の綱引き

『恩納村誌』によると、戦前の富着では6月25日に、「御嶽と地頭火神に富着と前兼久のワラ算を供し、各戸から人口割に神酒を徴した。前兼久からの神酒も捧げられた」とあります。かつては神アサギの前の道で東西に綱を引き、東(後組)の勝ちを喜んだと

あります。現在の綱引きは区民運動場で行われ、参加した子ども達に、老人会のみなさんが縄の縄の方や綱の作り方などを教えます。稲作がないため富着でもロープを代用した綱引きとなっています。綱引き後は区民交流を行い、楽しいひと時を過ごしています。

地域における年中行事は、生活様式の変化などにより、少しずつ形態を変えながら引き継がれているものや、消滅してしまったものも数多く見られます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の年中行事の中止や縮小が余儀無くされ、もうすぐ3回目の夏を迎えようとしています。村内各地における年中行事の完全再開はまだ厳しい面があるかもしれません。この状況が今後も長く続けば、地域行事の存続に関わる転換期となる可能性があります。これまで地域で大切に守られてきた行事の背景を再確認し、記録しておく必要があります。

(町田)



富着綱引き(2017年)

【参考文献】

- 『恩納村誌』1980年 恩納村役場
- 『恩納字誌』2007年 字恩納自治会
- 『沖縄の綱引き習俗調査報告書』2004年 沖縄県教育庁文化課